

# 令和6年 **8**月の大阪**森林**便り

## 目次



### 8月の木の話 木材色の特徴

- (1)  輸入木材 上昇基調に 住宅用、国産より1割高く
- (2)  輸入木材在庫 再び増加基調 住宅向け不振、出荷進まず
- (3)  持続可能社会を木材利用で実現



### 8月の木の話 木材色の特徴

- \*木材の色は概ね黄赤系の色相で、「暖色」に分類されます。
- \*明るく黄色っぽい材ほど密度が小さく（軽い）、暗く赤みの強い材ほど密度が大きい（重い）という傾向（例外も多くあります）。
- \*木材の色は1つの年輪でも変化しています。
- \*四季のはっきりした土地で育つ樹木には、春から夏にかけて急ピッチで成長した幅が広くて明るい部分（早材）から、夏の後半にじわじわ成長した幅の狭い暗い部分（晩材）へのグラデーションが現れます。

（木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ100問より抜粋引用）



### (1) 輸入木材 上昇基調に 住宅用、国産より1割高く

#### 円安、調達コスト反映

- \*欧州産のホワイトウッドが6月時点で前年同月比1%高。
- \*2023年後半からは再び輸入品の価格が国産を上回る傾向。
- \*商社が円安による調達コストを売値に反映。
- \*海上物流コストの上昇分も転嫁。
- \*丸太が値上がりしている影響も。
- \*現地の製材所が減産。
- \*国産杉間柱の6月の価格は、5月比で7%安。
- \*国産材も生産コストは増していますが、長期的な住宅市場の低迷を背景に売値に反映できていません。
- \*輸入材の取引価格はさらに上がる可能性があります。

（2024年7月13日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

## (2) 輸入木材在庫 再び増加基調

### 住宅向け不振、出荷進まず 北米産の価格上昇一服

- \* 輸入木材の在庫が再び増加基調に。
  - \* 東京地区の 6 月末時点の在庫量は、5 か月連続で前月よりも増えました。
  - \* 6 月末は 5 月末に比べ 5% 増。
  - \* 欧州産は 5 月末に比べ 7.5% 増。
  - \* 国内の住宅向け需要は依然低迷。
  - \* 木造住宅の新設着工数は 5 月、前年同月比 4.2% 減。
  - \* 在庫の拡大は当面続く公算が大。
- (2024 年 7 月 24 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



## (3) 持続可能社会を木材利用で実現

☆ 建築資材として木が注目される理由

- \* 木は光合成によって大気中の CO<sub>2</sub> を吸収して成長し、木材として生産された後も炭素を固定し続けるため、ライフサイクルを通じて CO<sub>2</sub> 排出量が少ない。
- \* 再生産が可能な循環型資源。

- \* 木は成長の過程でより CO<sub>2</sub> を吸収するので、木の利用促進が進むほど地球温暖化防止につながります。
  - \* 日本の森林面積は約 2500 万ヘクタールで、国土の 3 分の 2 に相当。
  - \* 森林資源は約 54 億 M<sup>3</sup>。
  - \* 人工林の面積は約 1000 万ヘクタールで、その半分以上が主伐期である 50 年生をこえています。
  - \* 政府は 2021 年に「都市（まち）の木造化推進法」を施行。
  - \* 建築物全般への木材の利用を拡大。
  - \* 木材は断熱性に優れていますので、光熱費の節約にもつながります。
  - \* 木は湿度が高いと空気中の水分を吸収し、乾燥している時は自らの水分を放出して湿度を保つ調湿効果もあります。
  - \* 木を床材に用いれば足腰への負担も軽減されます。
  - \* 耐火性能や耐震性能を備える木質建材や工法の開発も進んでいます。
  - \* 防火地域でも耐火構造とすることで 3 階建ても可能です。
- (2024 年 7 月 26 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)